



東洋大学工学部 機械工学科同窓会会報

第6号
平成20年
10月15日発行

平成 20 年度 機械工学科同窓会総会のお知らせ

恒例の機械工学科同窓会の平成20年度総会・懇親会を下記の通り開催いたしますので、皆様お誘いの上ご出席くださいますようお願いいたします。なお、今年度は工学部連合育成会総会は6月に開催いたしましたので、イベントのみとなりました。

記

日 時：平成20年11月2日（日）（工学祭第2日目）

内 容：1. 機械工学科同窓会総会 14時00分～14時45分

場 所：1301 教室（1号館3階）

- 議 題：1. 平成19年度活動報告及び会計報告
2. 平成20年度活動計画（案）及び予算（案）
3. 同窓会加入者増加策について
4. その他

2. 工学部連合育成会イベント 15時30分～16時30分

①落語 三遊亭遊喜（平成7年応用化学科卒）

三遊亭小遊三門下 現在二つ目、来年真打に昇進予定

②作品展示 切り絵作家 百鬼丸（昭和49年建築学科卒）

サンデー毎日の表紙、連載小説の挿絵、ポスター
など切り絵作家として活躍中。

場 所：福利厚生棟1階

3. 懇親会 17時00分～19時00分

場 所：未定（鶴ヶ島駅付近予定）

会 費：2,000円（学生は無料）

以上

機会工学科同窓会の現状と今後の活動

機械工学科同窓会会長 太田 和彦

機械工学科の第 6 号の会報をお届けするにあたり、同窓会の現状と今後の活動方針について述べてみたいと思います。

機械工学科の同窓会は平成 3 年 11 月に卒業生、教職員、在学生間の相互の親睦をはかることを目的として発足しました。それから 18 年目を迎えようとしております。現在、機械工学科の卒業生は 7249 名、そのうち会員（会費納入者）は 2545 名で加入率は約 35%です。平成 3 年度の第 27 期の卒業生から会員を募集したので、それ以前に卒業した人、第 1 期生から第 26 期生の加入者が少ないことは言うまでもありませんが、住所が不明の方も多く、同窓会のあることさえ知らない人も多くいます。一方、ここ数年新しい卒業生の加入者が増えてきておりましたが、今年の第 44 期生は残念ながら 143 名中 55 名の入会で入会率が約 39%と低い結果に終わってしまいました。

同窓会もここ数年、同期会開催への支援活動や、大学や同窓生の情報の発信手段として会報を発行してきました。昨年からは会報の発行も年 2 回に増やし、2 色刷りなどして工夫・努力しておりますが、加入者の増加にはすぐには繋がらないのが現状です。

このような状況を鑑み、幹事会でも議論し、来年度（11 月以降）から下記の点を重点にして活動していきたいと思っておりますので皆様のご理解とご協力のほどお願いいたします。



1. 同窓会への加入促進

新入会員の加入率アップ対策

同窓会への PR 活動と研究室の先生の協力を得る努力をするとともに、同窓会入会費の代償がないことの対策として研究室単位の簡単なアルバムを作成し新規加入者に配布する。

未加入の卒業生の加入促進

幹事を中心とした年次の同期会の開催を呼びかけ、その開催費の援助をするとともに同窓会活動への参加と加入を勧める。

2. 地方在住の卒業生と同窓会役員との交流会を開催

役員、幹事が卒業生の多く在住する都市を訪問し交流会を開催する。

3. 会報の充実

年 2 回発行の会報の中身をより充実し、卒業生に親しまれるようなものに近づける。

4. 工学部育成会の活動に協力する。

理工学部への移行の中で変動する育成会活動に積極的に協力し、役割分担しながら相互の発展をはかる。

東洋大学工学部とのソフアック寄付講座開設に当たり

新村 二郎 (第6期卒)

私は昭和45年機械科卒業で、現在日本ソフアック株式会社の代表取締役の新村です。

すでに工学部連合育成会のパンフレットには「ソフアック寄附講座」として紹介されていますが、機械科卒のOBとして改めて会報に紹介させていただきます。

東洋大学を受験した動機は、産業共同という目新しい言葉に惹かれたためです。何か新しい世界が開けるのではないかとの思いが多分にありました。受験の動機とは裏腹に、在学中は決して勉学に励む優秀な生徒ではなかったことは、自分でも十分理解しております。

卒業後の就職が偶然にも当時まだ黎明期でありましたIT業界に入ったということが幸いしました。最初の就職で10年間、コンピュータ関連の仕事をして、10年目に現在の会社「日本ソフアック株式会社」を設立しました。

日本ソフアックの社名の由来はソフトとハードを融合させて少しでも社会の役に立てばとの思いで命名しました。それからすでに28年。日本ソフアックの仕事の一部の紹介も兼ねてソフアック寄付講座開設の経緯を紹介します。弊社は開発から運用までのコンピュータトータルサービスを行う会社として成長してきました。特徴としては、日本全国にネットワークをめぐらせて約170万家庭に対しプロパンのガス切れが出ないよう、プロパン販売会社の販売・配送代金回収、ガス漏れ監視等のコンピュータによる総合支援の運用を行っています。

コンピュータのデータベースは50万、100万、150万と件数の増加と共に、ある限界件数になるとパフォーマンスが急激に低下します。運用サービスの仕事はレスポンスサービスが低下すると商売として致命傷になります。企業としては利益を求めなければなりませんので、重装備な構成で多くの費用をかけるわけにはいきません。そこでオラクルのデータベース下において安く、早くという

ことでラック方式(1つのデータベースに対し、CPUを複数個使用する)を使用しましたが、LPG販売システム全体の構築の技術的適性が合わずサービス向上に苦勞していました。

当時(平成16年頃かと思う)、育成会の立上げをお手伝いさせて頂いている間に前工学部長、米山教授と雑談する機会を得、弊社がプロパンガスのサービスにおいて困難をきたしていることを相談しました。そして問題解決の一助として共同研究室のお話を頂きました。

大学も新しい試み、私も入学した当初を思い出しまして、少しでもお役に立てればとの思いと良い研究成果が得られれば会社の発展にも役立つこともあり、「ソフアック寄付講座」の開設を決心しました。

私企業の長期間に亘る寄付講座の開設は東洋大学にとっては初めてのことで、準備に手間取りましたが、幸運にもドクターの資格取得をねらっている山際先生に遭遇し、米山先生の推薦も受け、全ての環境が整って平成20年4月から川越キャンパスにおいてソフアック寄付講座をスタートすることが可能となりました。

東洋大学も私共会社も両社にとって有益であり将来への架け橋となる様な研究案件を求めて苦戦しているところです。ソフアック寄付講座の開設の動機が燃料であるプロパンガスの為、現在は「エネルギーとエコグリーン」をキーワードとしてテーマを模索しています。

全てが未知、何が飛び出すかわかりませんが頑張りますので、OBの皆様方のご支援をよろしくお願い致します。



Challenge — 医師をめざして —

大城 武 (第4期卒)

S39年沖縄を出て、東洋大学工学部機械工学科に入学し、好きな学科を学べると嬉しさと希望を抱いて学生生活が始まりました。今、振り返ってみると川越での4年間は学友に恵まれ、勉強、遊び、アルバイト、色々と楽しい思い出が濃縮された青春時代であったと思います。

学校では、初代工学部長の大越教授の名講義を始め、芝、成瀬、木下教授、そして一瀬、上原助教授の諸先生方から授業だけでなく、人柄からも色々と学ばせてもらった事は今となっては大変ありがたい事と思っています。

4年生になると、卒論、就職活動が始まり皆忙しそうの中で、私は、大学院進学を希望、それもアメリカで博士号を取るという夢があり、就職先の一覧表に「留学」と記入した事を今でも鮮明に憶えています。

当時、アメリカ留学がとてつもない様に思え、恥ずかしくて誰にも言えず卒業を迎えました。

帰郷するや否や、直ぐに米国留学を目指して英語の勉強を開始し、ある程度自信も付き試験にパスするものと思ったが、見事に不合格でした。けれど、日に日に留学への気持ちを抑えきれずにいた頃、「どっちみち、留学するなら違ったコースを外国でやってみては」との姉のアドバイスで医学を外国で勉強するという事に Challenge! しようと決心しました。そうは言うものの、雲をつかむような計画で不安と希望が入り混じった中、S44年7月11日、比国(フィリピン)での留学が実現しました。

当時、比国は英語圏で、生活費、学費も安く、そして卒業してからアメリカへ行くという計画でした。運良く私立名門校(サント・トマス大学)の医学部予科に入学出来たが、予科の次は難しい本科(医学部)への入学試験があり、あまり喜んでおれなかった。

今、思うと無謀な挑戦でした。7年間辞書の様な分厚い英語のテキストを、ヒイ、ヒイしながら読みこなす中「何でそこまで苦勞



して勉強しなければいけないの？」と何度悩み失望し、自問自答した事か。大学での授業はもちろん英語で、毎日なんらかの小テスト、そして中間、期末テスト、それらを60点以上取らなければ進級できないシステムでした。

比国は、とにかく暑い(1年中夏である)。その上、日本と違った文化圏で扇風機をフル回転させながらやる勉強は、今、思い出しても良くやったもんだと思う。あまりのきつさに、「私の望みは、勉強が出来、無事試験にパスできますように」と神に祈った事が、今は懐かしい思い出となっています。

最初の頃(予科)は良かったが、本科の1年生からは勉強の質、量ともに増え難しくなりプレッシャーで、今となっては恥ずかしい話だが、登校拒否(大学生になってもあるんです?)や原因不明の頭痛等による心気症に陥りました。家族の励ましで一步、一步、1日、1日どうにかこうにか勉強を続ける事が出来ました。「継続は力なり！」と良く言ったもんだと思います。

本科の最終学年(6年生)にもなると、成績も良くなり Intern として病院実習で、手術の Assist や分娩等をさせてもらって半分は医師になった気分の毎日でした。S51年無事卒業を迎える事が出来ました。

医学部を卒業して喜んでばかりもしておれず、今度は日本で医師国家試験というハードルを乗り越えなければならぬ新たな苦難

があらうとは、当時思ってもいませんでした。帰国後、早速、自治医科大学の外科医局に入局し勉強を開始するが、一番困った事は英語では分かるが、日本語では分からない事柄があまりにも多く図書館で独学に近いような日々が続きました。

帰国して2年目には、生活費にも事欠くありさまで錦糸町の職安近くの下宿屋に移り住んだ。机にかじり着くように毎日勉強をするが思うように行かない自分の人生に失望、落胆し不安の中で駅前のお占師に運勢を問う事もありました。だけど世の中は不思議なものです、お占師の予言(?)通り、その年無事、国家試験にパスしました。半信半疑で喜びもよりもホットした気持ちで暫くは放心状態の日々でした。

目標の博士号 MD (Doctor of Medicine) 手中にするのに 10 年の月日が経っておりました。それから、結婚、大学病院、市中病院を経て郷里(糸満市)で 20 年前に整形外科を開業しました。

整形外科は、外傷、骨折を治療する事が多い科です。それが非常に！非常に面白いのです！。僕にとっては、機械工学で学んだ事が生きてくるんです。鋸、ノミ、ハンマー、ペンチ、ヤスリ、ネジ、ワイヤー、金属プレート、ドリル、リーマ等の道具やそして、モーメント、応力、重心それらを駆使して骨接合をしたり、骨を削ったり、セラミックの人工関節を挿入したり機械工学が役立つ専門科だと思います。川越で学んだ事を思い出しながら手術をした事もありました。

現在は、整形外科とデイサービスを併設し、職員も 30 名かかえ地域住民医療に貢献するように毎日診療に勤しんでおります。

これまでの人生を振り返ると確かに、山あり、谷ありでしたが、それも、これも今の自分がある為の必要で避けて通れなかった試練だったのではないかと考えております。

最後に、後輩の皆様へ、「夢を持って下さい！ 夢を！ 立ち向かって下さい！ そして継続して下さい！」。

ワイナリーを経営して

木田 茂樹 (第 22 期卒)

卒業してから

機械工学科を卒業後そのまま研究室に残り大学院の修士課程を修了しました。流体力学の研究をしていましたのでレーシングカー等の設計に進むことも考えていましたが、以前から興味があった工業デザインの専門会社に就職しました。入社後名古屋デザイン博覧会のモニュメントの企画・設計を行いクライアント・広告代理店等・製作会社との関係業務を学び、その後は様々な製品開発の現場を経験することが出来ました。

バブル経済が弾けた時期でしたが、経営・管理を勉強するため転職し大手不動産会社に入りオフィスビルのマネジメント業務を行いました。ここでは不動産の管理とテナント・銀行との関係業務を学びました。

1997年にワイナリーに就職し、同時に

国税庁醸造研究所(現・酒類総合研究所)に入り研究員となり酒造りの基本を学びました。物作りをする会社の経営をする為には様々な経験が必要であり卒業後直ぐにワイナリーで働けなかったことが私の財産となっています。

ワイナリーでの仕事

私が働いているルミエールワイナリーは1885年(明治18年)創業の日本ではとても古いワイナリーです。日本(山梨)のワイン産業が始まったのは約130年前ですから、その当時から現在に至るまで続けていますので日本のワイン造りの歴史を全て知っているワイナリーといえます。

山梨県の甲府盆地はその気候風土が果物を作るのに最適な環境でありブドウ以外にも

桃・イチゴ・さくらんぼと様々な果実が生産されています。1998年のワインブームにより多くの日本人がワインを飲むようになり、海外からの輸入量も増え、日本のワイン造りもその存在が知られるようになりました。

ワイナリーの基本はブドウ畑の管理から始まります。ルミエールは農業(ぶどうの栽培)から醸造業、販売業まで全て一貫して行っております。特にルミエールが手がけるブドウ畑は自然農法を取り入れ化学農薬を使わない栽培管理を行っています。創業より特に品質第一の姿勢を貫き「良い葡萄から良いワインを作る」をモットーにワインを作り続け、欧州でのワインコンクールでも数々の金賞をいただいております。

仕事を離れて

趣味はアウトドアスポーツを色々と楽しんでます。山梨はトレッキングに優れたコースが沢山あり気軽に日帰り登山を楽しんでいます。大学時代に流体力学の研究をしていたこともあり、セーリングを本格的に行いレース活動に取り組んでいます。セーリングというと優雅なイメージが強く研究という雰囲気はありませんが、実際は過酷なスポーツで奥が深くチームのマネジメントのノウハウは会社運営につながる所が多く大変勉強になっています。このスポーツを追及し後輩に伝えていくことは日本の文化レベル高めることであり長く続けて行きたいと思っています。

大学時代を振り返って

大学時代は実験と製図に明け暮れていたような気がします。また、生産工学を学んでいたことが、現在の工場を運営する上で大変役に立っています。大学に入る前からもの造りの現場で働きたかったのが、大学時代に学んだことはとても大切でした。工場では色々なアイデアが必要で簡単な設計・製作が自分でできることは運営上とても役に立っています。携帯電話など無かった時代でしたが、無駄な出費もなく有意義な時間がすごせたと思

います。特に産学協同で実習に出られたことは就職前に職場の現状を把握でき参考になりました。

同期の皆さんへ

山梨に遊びに来てください、日本のワイン造りの歴史と現状をお話します。

在校生に先輩として

何が将来役に立つかわかりませんし、自分の好きな仕事に就けるかもわかりません、まずは必要とされる技術を身につけて惜しみなく使うことでしょう。「仕事は与えられるものでなく自分で探し他の人の役に立つことです」。

会社に入れば時間内に正確に作業を終えることも大切です。「金のためにだけ働くのではなく人(社会)のために働く」ことを忘れてはいけません。会社も利益を優先順位が一番とした会社はいつか潰れて行きますが、理念を大切に国民の為に働くことを考えている会社は長く続くものです。

会社に入れば色々な仕事をする事になりますが、メインの仕事が無いときは掃除・片付けをしましょう。これを進んでやると会社のことが良く分かります。最近は飲みに行くことが少なくなりましたが上司を積極的に誘い出して話を聞くことも大切です。コミュニケーションを密にして組織を作ることが仕事にも大きく影響します。

例えば、ワイナリーだから醸造学を学んでいないと働けないと思ったら、それは大きな間違いです。ワイン会社を運営する為には、機械や電気の取り扱いに強い人材、書類管理・在庫管理等が秀でた人材、写真撮影・広報・ホームページの作成等が得意な人材など、様々な人材が必要で働いています。

山梨にはブドウ栽培やワイン醸造の人材は居ますが、農家が多いので、それ以外の人材は皆無に近い状態です。そのため社員の半数以上は東京で勉強した人達です。中には東京で働くことをやめて山梨にきた人もいます。これは山梨で働く環境が健康にとっても良いという理由もあります。

現在、私は山梨県ワイン酒造組合の理事も勤めています。これは一会社での仕事を望んでいるのではなく、山梨のワイン造りそのものの発展を望んでいるためです。山梨県の観光大使も勤めています。東京に隣接する山梨県ですが、全国的には存在感が薄く陸の孤島であるので、少しでも多くの人に山梨県を知ってもらいたいからです。山梨県を知ってもらう活動を何故、東京出身の私がやっているのか不思議なところがありますが、東京出身者だからこそ分る山梨の良さを知っているからです。この様に異分野の人間はとても刺激的でその業界（会社）に新たな着眼点を見つめることが出来るのです。

結論を言うと、自分が学んできた学問や仕事は全て生かすことが出来るということです。特にいくつかの専門分野（得意分野）を持ちつづければ、それを必要とする会社はいくらでもあります。大学で学んだことが全て役立つわけではありません。むしろそれをバネに社会に入ってから自己啓発をすることの方が大切でしょう。社会を生き抜くためには一生懸命勉強です。早く学生は卒業して本当の勉強をするために社会に出てきてください。

木田茂樹さん 1986年機械工学科卒業
1988年大学院工学研究科修了 1998年G K
テックに勤務
1997年(株)ルミエールに転職 現在、(株)
ルミエール代表取締役



【ルミエールのブドウ畑】

ルミエールのワイナリーの所在地は

〒405-0052

山梨県笛吹市一宮町南野呂 624 番地

TEL 0553-47-0207

ワイナリーの敷地内に、ぶどう畑を一望できるワイナリーキッチンがあり、昼食を取ることができます。希望者にはワイナリーの見学も出来ます。

詳細はHP

"<http://www.lumiere.co.jp/index.html>"
をご覧ください。

東京でルミエールのワインを入手するには
ワインショップ「IN VINO VERITAS」
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-7-1 塩崎ビルB1
TEL : 03-3222-8860
FAX : 03-3265-0066
で買うことが出来ます。
なかなか手に入らないオールド・ヴィンテージ・ワイン。
知る人ぞ知る貴重なワインをはじめ、高品質でリーズナブルなワインやヴィネガーも取りそろえています。



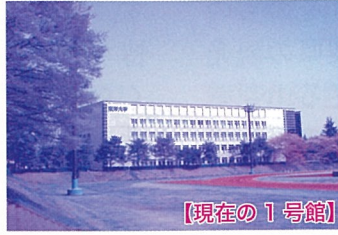
【工場の地下にある古いセラー】



キャンパスの变革



【S56 校舎鳥瞰図】



【現在の1号館】



【現在の校舎鳥瞰図】

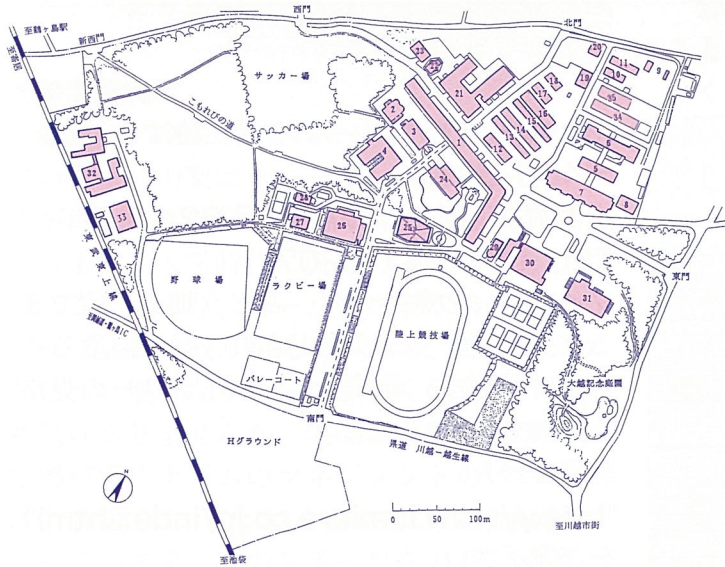


【S56 校舎鳥瞰図】

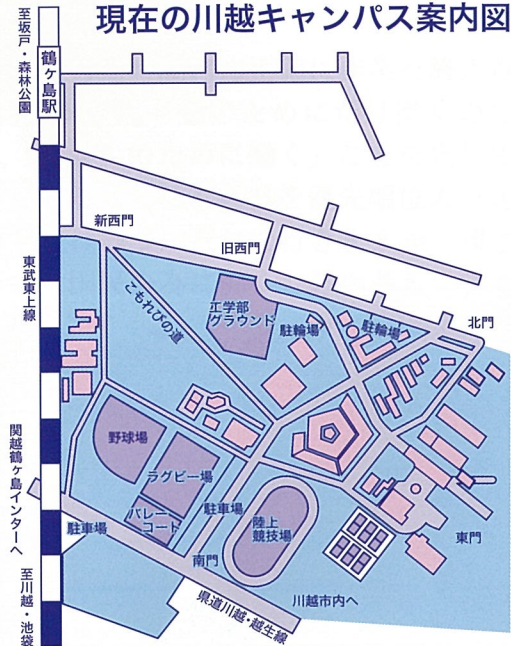


【現在の校舎】

1985年頃の川越キャンパス



現在の川越キャンパス案内図



【編集後記】

会報も6号となると記事が種切れ?マンネリ化?してきたようで編集担当として反省をしています。太田会長の活性化案をもとに面白く役に立つ会報を目指したいと思います。

今号の「OB だより」は機械にあまり関係のない仕事をなさっている2名の卒業生にお願いしました。卒業生が多くなるといろいろな分野で活躍している方がいてお話を聞くのが楽しみです。若い世代の卒業生の情報が少ないとのことを受けています。今後、原稿のお願いが行きました是非とも皆様ご協力下さい。

(清澤 (第1期 S40.3 卒) 記)

この会報は、原則として終身会費を納めた卒業生にお送りしています。

会費が未納の方で会報を受け取った方は、終身会費5,000円を下記の郵便振替口座にて納入をお願いいたします。

郵便振替口座 00150-2-752854

東洋大学工学部機械工学科同窓会

～同窓会連絡先～

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100
東洋大学工学部連合育成会 気付

機械工学科同窓会事務局

電話・FAX:049-239-1679

E-mail: ikuseikai@eng.toyo.ac.jp

担当 清澤文彌太 小林康男